



岩江中だより

第 48 号

発行日：平成 28 年 3 月 22 日

発行：三春町立岩江中学校

電話：0247-62-8290

FAX：0247-62-8380

E-mail:school@iwae-j.fks.ed.jp

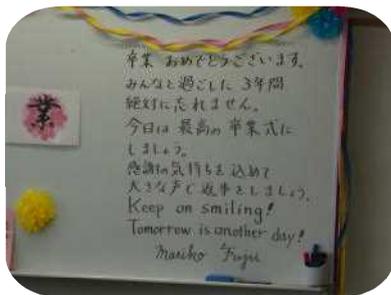
学校経営基本方針『こころ豊かに』～「共に」語り合い、分かち合い、成長する学校～

【命を見つめ、選手、自らの生き方について考えました。～車椅子バスケ、その後！～】

3月11日（金）は、平成27年度の卒業証書授与式。たくさんの学びや思い出を胸に、45名の3年生が岩江中学校を巣立っていきました。一人ひとりに卒業証書を手渡しながらかんじたことは、一人ひとりの子どもたちのまっすぐな心、まっすぐなまなざしでした。あまりのまっすぐさに、手渡す方の背筋がびんと伸びるような感覚をいただきました。

4月からは、それぞれのめざす道へ、それぞれにスタートを切ります。卒業生にとって、岩江中学校はどんな中学校だったのでしょうか。見送りの時間をだいぶ過ぎて、見送りの列に2回目の突入を図ったり、学校を去りかねて恩師の先生方と記念写真を撮っていたりする姿を見ると、まんざら苦い思い出ばかりではなく、去りがたい何か一人ひとりの子どもたちの胸にあったのかなという思いを巡らした次第です。

岩江中学校の教育目標『自立』の精神のもと、すべての卒業生みなさんに幸多からんことを心より祈ります。



【『3. 11』から5年。～『こころ豊かに、たくましく』未来を歩んでまいります。～】

今なお傷跡を残す東日本大震災から5年が経過しました。この5年間、すべての福島県民が、さまざまな障がいの中、ふくしまの復興をめざし、一生懸命生きてきました。

岩江中学校におきましても、記憶を風化させることなく、風評にも負けずに、未来を生きる子どもたちの育成にむけ、2:46に校務センターにおいて次のような確認を『共に』行いました。

「私たちは5年前の3月11日、それぞれの地で、後に『東日本大震災』と命名された大災害を経験しました。地震、津波、原発事故、放射線、私たちは未だかつて誰も経験したことのないようなたくさんの出来事を乗り越え、そして、乗り越えようとしています。

この5年間で犠牲となられた方々に哀悼の意を表すと共に、6年目の、その第1日目、子どもたちも、私たち自身も、一つ一つの命を今まで以上に大切に、「希望」という次のステップをめざしていきたくと心より思います。」

【3/16（水）、岩江中を背負って立つ2学年集会！

～足元を見つめ、日々の一つ一つの活動を心を込めて、丁寧に！～

3月11日（金）に45名の卒業生を送り出し、3月14日（月）から1・2年生だけの生活が始まりました。その時使用したのが、下の写真の内の3月9日と3月16日の2枚の写真でした。2枚の写真は、同じ場所のトイレのスリッパの様子を撮影したものです。

集会で校長は、2年生に語りかけました。「この2枚の写真の違いが分かりますか。1枚は3月9日の、もう一枚は今日3月16日のものです。ひょっとしたらこれは、今の校長の心の中や、みなさんの心の状態を表したものではないでしょうか。卒業生から学校を引き継いだ1・2年生がどこに進んだらいいのか分からないという、心の中の状況ではないでしょうか。」と。「先輩から学校を引き継ぐ、岩江中学校の顔となるということはどういうことか考えてみましょう。」とも。そして、最後に伝えたのが、上の言葉、「足元を見つめ、日々の一つ一つの活動を心を込めて、丁寧に。」という言葉でした。

その結果が、3月18日（金）の朝に撮影した1・2階のトイレのスリッパの写真につながります。『自立』とは、誰がいても、いなくとも、自らの、そして、自分たちの判断でその場にふさわしい適切な言動をとることができるということが具現化した一つの姿です。すばらしい子どもたちと先生方です。



3月18日（金）2階トイレ



3月9日（水）1階トイレ



3月16日（水）1階トイレ



3月18日（金）1階トイレ

【一雨ごとに、行事を一つずつ経て、もうすぐ花咲き乱れる季節を迎えます！】

白い雪にかわってみぞれが空から落ちてきて、岩江幼稚園の卒園式は3月17日、横断歩道近くの畑の梅の花はほころび始め、花壇の花々もつぼみを開かせています。『自立』をめざして取り組んできた平成27年度もまもなく結びの時を迎えます。

